

[巻頭言]

情報システム学会誌への投稿のすすめ

学会誌編集委員長

石井 信明

はじめに

昨年5月の総会におきまして、学会誌編集委員長を拝命いたしました。本巻頭言では、学会の一層の発展を願って、情報システム学会誌への投稿のすすめについて何点か述べさせていただきます。

実務家と研究者の交流の場としての学会誌

情報システム学会の理念には、「様々な分野の研究者、実務家、経営者、利用者、一般市民及び行政といった人々に参加を呼びかけ、さらには相互間の連携を図っていく」との一文があります。また、初代会長は、本学会の目指すべき方向と役割として、(1)情報システム人材の育成、(2)実務家と研究者の交流、(3)これからの情報システムのあり方、の3点をあげています。このように本学会は、情報システムの人間活動を含む社会的な仕組みに着目し、発足当初から、多く実務家の参加、実務家と研究者の交流を、学会活動の前提としています。

学会誌は、そのための一つの場を提供する役割を担っており、研究論文や事例報告論文だけでなく、論説、記事など、下記のように、さまざまな分野の投稿を受け付けています。

(1) 論文

a) 論文： 学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新奇性、信頼性、有用性などの価値を有し情報システム学の進歩に貢献するとともに、会員にとって価値のあるもの。

b) 小論文： 新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案で、特に速やかに発表することにより情報システム学の進歩に貢献

する内容を含み、将来あらためて論文として投稿することが前提。

c) サーベイ論文： 特定分野の研究あるいは開発成果を独自に体系化したもので、会員にとって有用であるとともに、情報システムの学問的体系化に貢献するもの。

d) 事例報告論文： 実用に供された情報システムの事例を客観的に報告するもので、同種または異種の情報システムの開発にとって有益な情報を提供するものである。事例報告論文は、客観性、信頼性、有用性を重視。

(2) 論説

著者の主張、アイデアを論理的に述べたもので、客観的評価は必要としないが論述の論理性が高いことが必要である。

(3) 記事

a) ニュース： 会員に周知することが適切と考えられる即時性をもった記事。

b) 文献紹介： 会員に有益と思われる文献の紹介。

c) 解説： ソフトウェア、ハードウェア、システムなどの詳細を解説する記事。

d) 討論： 話題の提供、掲載された論文または記事に対する質問および回答。

(4) 創作

実用に供されているシステム、アプリケーションソフトウェアなど、著者の創作物であって、これを発表することが会員にとって有用であると認められるもの。

実務家からの投稿歓迎

本学会は、企業などの第一線でご活躍の実務家が多くを占めています。これは、本学会の大きな特徴の一つであり、また、情報システムの観点から社会に貢献出来る潜在的な力であると考えます。

どのような学会においても、学会誌は学会の顔であり、本学会の特徴を活かした学会誌の充実

Nobuaki Ishii

文教大学情報学部

Bunkyo University

[巻頭言] 2013年3月1日受付

©情報システム学会

が必要です。本学会の理念を実現し広く社会に貢献するためにも、実務家と研究者の交流の場の一つとしてユニークな学会誌に育てたいと考えています。

そのためには、学会員の皆様方の協力が必要です。研究者はもとより、多くの実務家からの論文の投稿を歓迎します。

論文誌への投稿にあたって

投稿には、査読の有無により、大きく2種類があります。一つが論文です。学会誌への論文としての掲載には、査読が必要です。査読では、編集委員会が選定する2名以上の査読委員により、論文の新奇性、進歩性、信頼性、有用性、読みやすさ、など複数の観点から評価を行い、学会誌への掲載に相応しい論文であるかどうかの判断を行います。

他の一つは論説、記事および創作で、これらについては、査読はありません。ただし、編集委員会の責任によって閲読を行い、読みやすさ、誤字脱字などの修正をお願いすることがあります。

本学会誌の特徴

前号の巻頭言で前編集委員長がお知らせしたように、本学会誌の編集方針として、投稿論文に対し、実質的にコメントする機会を2回設け、3回目の査読で採否を決定することを原則としています。当然、問題が無ければ1回の査読で掲載となります。また、論文に本質的な問題があると判断された場合は1回目の査読で不採録になりますが、原則、実質的なコメントを2回行います。多くの学会では、査読は2回までとしていますが、本学会では3回の査読を行うことで、論文のスタイルになれていない

と考えられる実務家に対し、著者と査読委員の間に緊密なコミュニケーションを設けることで、投稿論文をよりよい内容に仕上げていくことにつながると考えています。

これも前号の巻頭言で前編集委員長が示した様に、多くの学会では、学会誌への掲載にあたり掲載料を求めます。本学会では、掲載料は無料としています。また、多くの学会ではページ数の制限を設けていますが、本学会誌では、予めページ数の上限を定めていません。もちろん、学会誌としての範囲を超えるものについては、査読、あるいは、閲読の段階で編集委員会から削減の依頼をすることにはなりません。

さらに本学会では、編集委員会とは別の活動として、「情報システム論文の作成および査読のありかた研究会」(<http://issj.school-website.jp/writing/2012/about/>)を定期的で開催しています。これは論文投稿者を直接支援する研究会で、他の学会では見られない大変特徴のある活動です。これまでの研究成果のまとめ方、あるいは、実務家としての成果を論文にまとめたい方は本研究会を活用して頂き、情報システム学会誌に投稿されることをお勧めします。本研究会からの投稿増加により充実した学会誌となり、それがさらに研究会を活性化する良い循環が起きることを期待しているところです。

おわりに

既に申し上げたように、学会誌は学会の顔といえるものです。情報システム学会の健全な発展のためには、学会誌の充実が欠かせません。皆様方から、多くの投稿を歓迎いたします。また、本学会誌へのご意見、お気付きの点がありましたら、編集委員会にご連絡をお願いいたします。